

「公表」

もう年齢の話は十分という声が聞こえてきそう。

そう、私は半世紀以上生きている。

ベルテールの子どもたちにも公表している。

でも必ず

「女の方は、年齢を言うのはちょっと恥ずかしいと思う人もいますからいきなり何歳ですか？ときくのはブブー」

という話をする。

そのうち、また私の年齢の話になったとき、

「ほかの先生に年齢をきくのは…」と言いかけたら

「女の方にはきかないんだよね」

という声があがった。

よかった。

伝わっている。

またベルテールの別の園で

膝が痛くて正座ができないことを年のせいにしていたら年齢をたずねられここでも公表した。

すると「大丈夫。53歳はおばあちゃんじゃないよ」

そのほか、顔のしわなどにも言及して、まだ大丈夫であるという

励ましの言葉が寄せられた。

私をおばあちゃん扱いするベルテールの職員たちよ。

この声に耳をかたむけてほしい。

というのは冗談で、以前申し上げたように、私は変化を受け入れている。

そういつつ、あるとき電車に乗り合わせた若いパパが

2歳くらいのお子さんに手をやいていて

少しお相手をさせていただいたことがあった。

お子さんも落ち着き、お相手をしながら若いパパとも話をした。

自分の子どもは成人しているので、こんな感じは懐かしい、なんて話をしたら

その若いパパは「今度はお孫さんですね」と屈託なく笑った。

なんかさあ、その、1ミリの遠慮もなく、至極当然のように言われるのもねえ。

ほんの一瞬、ピキッとされた。

おっかしいなあ。

変化を受け入れているんだけどね。ほんと。

